

講座内容一覧

●必修領域(6時間、6,000円)

●A 学校教育と子どもを巡る最新動向:平成29年7月29日(土)

講習の概要	対象	担当講師
日本の教員養成政策や学習指導要領の改訂、世界の学校教育の動向、子どもの発達や発達障害等に係わる研究動向、カウンセリングマインド、子どもたちの多様化に応じた学級づくりと担任の役割について、受講者に最新の知識や考え方を提供し、学校教育に携わる受講者の職業的なりフレッシュの一助とする。	全教員	早川 操 宮川充司 坂本徳弥

■選択必修領域(各6時間、各6,000円)

■B1 学習指導要領の改訂・学校危機管理:平成29年7月31日(月)

講習の概要	対象	担当講師
次期学習指導要領の改訂のポイントを理解するために、これまでの学習指導要領の変遷とそれらの特徴、また次期学習指導要領のポイントとなっている具体的項目を検討する。また、学校危機管理の問題となっている自然災害・学校テロ等の諸問題と対応を、グループ討議を交えて検討する。	全教員	早川 操 宮川充司

■B2 国際理解と異文化理解教育:平成29年7月31日(月)

講習の概要	対象	担当講師
日本国内においてもグローバル化と多文化化が進展しており、東海エリアには多くの外国人児童生徒が住んでいる。国際理解教育や異文化間教育がますます重要になってきている。そこで、国際理解や異文化理解の基本的な考え方や世界的動向、学級や学校での具体的な取り組み等をアクティブラーニングを交えながら提示し、多文化共生の学校・学級づくり、大陸を越えた学び合いと音楽による交流活動など最新の教育実践を紹介する。	全教員	宇土泰寛 林 敏博

◆選択領域(各6時間、各6,000円)

◆C1 ICTと教育メディアの活用:平成29年8月1日(火)

講習の概要	到達目標	対象	担当講師
現代社会では、情報や情報技術が社会基盤として機能しており、情報や情報手段を主体的に選択し活用できる能力は、非常に重要な要素である。本講座では、学校を取り巻くICT環境や情報教育の現状を把握するとともに、授業設計や学習スタイル等について考え、ICTをどのように活用すれば、児童・生徒とのインタラクティブな授業を生み出し、効果を上げることが出来るのか、授業実践事例を紹介するとともに、アプリケーションソフトやインターネットを単に利用するだけでなく、コンピュータを利用して情報を作り出すことや様々な問題を自ら解決していく力をつけさせるための授業づくりを考える。	学校を取り巻くICT環境や情報教育の現状を把握し、情報や情報手段を主体的に選択し活用できる能力や学校における教育の情報化の必要性について考えるとともに、授業設計の基本的な考え方や学習スタイル等についての視点を知る。また、ICTを活用した児童・生徒とのインタラクティブな授業の事例やICTの活用した学習の事例を体験することで、様々な問題を自ら解決していく力をつけさせるための授業づくりについて考察する。	教諭	鳥居隆司 亀井美穂子 松山智恵子 宮下十有

◆C2 コンピュータ・プログラミング教育の基礎:平成29年8月3日(木)

講習の概要	到達目標	対象	担当講師
<p>情報社会は、情報通信技術が重要な役割を果たしており、情報活用能力の育成を担う教育の役割は、非常に大きい。そして、いわゆるプログラミング的思考力の基礎を育成するために必要なコンピュータ科学の理解も、重要な意味を持ってきている。コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組みを理解し、体感的に学ぶことは、プログラミング的思考力の必要性を実感することであり、コンピュータを介した人と現実社会との関わりを知るためのひとつの方法である。本講座では、コンピュータの仕組みや働き、プログラミングについて容易に体験できる環境を用い、それらによる実習を行いながら、プログラミング的思考力や授業の工夫について考える。</p>	<p>コンピュータの基礎的な仕組みの理解のために、児童・生徒が興味関心を持ちやすいLEDなどを用い、それらを接続したマイクロコントローラに対してプログラミングを行うことでコントロールする方法を体験する。このような体験から、コンピュータのハードウェアとソフトウェアの役割について実感するとともに、プログラミング的思考力の必要性とインタラクティブな「ものづくり」の基礎的な部分にも触れ、コンピュータと現実世界との関わりについて考える。</p>	教諭	鳥居隆司 加藤良将

◆C3 神経発達症(発達障害)と教室での対応:平成29年8月7日(月)

講習の概要	到達目標	対象	担当講師
<p>【中島】 ー神経発達症(発達障害)の理解と早期の気づき・対応ー 子どもの発達に関して、最近、特に自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠如多動症(ADHD)、限局性学習症(LD)などいわゆる発達障害(神経発達症)が話題となっている。これらの疾患がある子どもは、二次障害が発生しやすいこともあり、早期に気づかれ、適切に対応されることが重要であることから、疾患の特徴や対応の基本的な考え方などについて、主として小児神経学の観点から解説する。</p> <p>【中西】 ー発達障害の最前線ー 発達障害を持つ子どもへの支援/保護者への対応の実際 発達障害を持つ子どもへの学校場面での支援の実際についてタイプ別に講義をする予定である。 ①ASDの子どもの理解と支援 ②ADHDの子どもの理解と支援 ③LDの子どもの理解と支援 ④保護者への対応</p>	<p>【中島】自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠如多動症(ADHD)、限局性学習症(LD)などいわゆる発達障害(神経発達症)がある子どもは、幼稚園・小学校など集団の場で気づかれやすいことから、これらの疾患に関する現時点の知見について理解することにより、早期に気づき、二次障害の発生の予防を含め適切に対応できる。 【中西】ASD、ADHD、LDについて、またそれぞれのグレーゾーンの子どもの状態像についての理解を深め、教室での支援の実際(学習の支援やソーシャル・スキルの支援、教材の工夫について等)、対応の仕方のアウトラインを身につけることを目標とする。</p>	教諭 養護教諭	中島正夫 中西由里

◆C4 学校における健康問題とその対応:平成29年8月8日(火)

講習の概要	到達目標	対象	担当講師
<p>ー症状ケア・応急処置に関する最近の知見ー 本講座では、学校で起こりうる児童・生徒の健康問題を取り上げ、その症状と対応について説明します。 前半では、児童・生徒の健康問題における概要と、心臓性突然死、頭部外傷、急性アレルギー反応、1型糖尿病に焦点を当てた原因(要因)と症状および対処方法について講義形式により説明します。 後半では、前半での対処方法について実践形式で説明を行います。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童・生徒の心臓性突然死の原因(要因)と症状および対処方法が理解できます。 2. 児童・生徒の頭部外傷における症状および対処方法が理解できます。 3. 児童・生徒の急性アレルギー反応の原因(要因)と症状および対処方法が理解できます。 4. 児童・生徒の1型糖尿病の原因(要因)と症状および対処方法が理解できます。 	教諭 養護教諭	前田節子 生田美智子 竹井留美 安本卓也

◆C5 学校数学の現代数学的視点からの再検討:平成29年8月2日(水)

講習の概要	到達目標	対象	担当講師
<p>一学校数学における教育内容の現代数学的視点からの再検討一</p> <p>学校数学において現在扱われている教育内容には、古くギリシャに遡る古典的な内容が多いが、その背景にある考え方や理解の仕方は、むしろ近代から20世紀になって得られた現代的な内容を数多く含んでいる。このような精神を教養として身に付けることは、算数・数学科の学習指導を担う者にとって大変重要である。本講座では、現代数学的な概念がどのような理解を生み出すのか、そしてそれらがどのように新しい学習指導要領で目指された学習指導につながるのかを紹介し、児童・生徒の学びへとつながり得るかを考察する。</p>	<p>中・高等学校で扱われている教育内容の背景にある現代数学としての知識や考え方を知り、それらを習得する。その上で、新しい学習指導要領が目指す算数・数学科における学習指導での活用方法を知るとともに、今後、推進・継続されるであろう更なる教材研究の基礎となる素養を身につける。</p>	<p>小学校教諭 中高数学科 教諭</p>	<p>浪川幸彦 白井朗 竹内聖彦 高橋 聡</p>

◆C6 食育を取り巻く最新事情と課題:平成29年8月3日(木)

講習の概要	到達目標	対象	担当講師
<p>【加賀谷】 一教材研究「日本と外国の食文化について考えよう」一</p> <p>平成25年12月、日本の和食がユネスコの無形文化遺産に登録され、和食が世界的に注目されるようになった。日本では近年さまざまな食文化が混在し、日本本来の食文化は薄れつつある。一方、外国では近年、日本食ブームが起こるなど、日本の食文化についての関心が高い。そこで、日本の食文化、外国の食文化、和食文化の良さ、継承すべき和食文化などを児童・生徒に理解させる手段として、年齢に応じた教材の工夫すべき点などについて、グループ活動を通して考える。</p> <p>【石垣】 一学校給食及び食環境の変遷から今後の「食育の在り方」を展望する一</p> <p>「食」は、本来生命保持の源であり健康の保持増進、子ども達にとっては健やかな成長という普遍的課題をもっているが、時代と共に「食」のありようや内容が変化してきた。現在「食」は生活習慣病予防対策の一翼を担い、ライフステージごとの食育が望まれている。学校給食や食環境の変遷をたどる中で、次代を担う子ども達が「望ましい食」を体得するにはいかにすればよいかを共に考える。</p>	<p>【加賀谷】</p> <p>我が国の食文化、諸外国の食文化、和食文化の良さ・継承すべき和食文化について考える。児童・生徒の発達段階に応じた教材について、数種の教材見本を基にグループディスカッションで意見をまとめ、問題点、改善点について発表を行い、今後の食文化継承のあり方についての考えを深める。</p> <p>【石垣】</p> <p>子ども達が抱える「食」の課題は、各家庭、各学校、地域により異なる点もあるが、どのように進展、解決を目指せばよいか今後の食育に生かせるようにする。</p>	<p>中高家庭科 教諭 栄養教諭</p>	<p>加賀谷みえ子 石垣みね子</p>

◆C7 食と健康を巡る最新事情と課題:平成29年8月4日(金)

講習の概要	到達目標	対象	担当講師
<p>【内藤】 一子どもの時からの生活習慣病予防一</p> <p>生活習慣病予防のためには、出来るだけ早い時期から、よい生活習慣を身につけることが大切です。本講座では、まず、肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病、脂質異常症といった、いわゆる生活習慣病についての基本的な知識を解説します。次に、これらの生活習慣病の予防に焦点をあて、子どもの時から食生活や身体活動・運動についてどのような生活習慣を身につけることが望ましいかをお話します。</p> <p>【三田】一健康の維持・増進を目的とした食事について、その科学的根拠と活用方法、これらを活かした栄養教育方法とその理論を解説し、食育で目指す「食」のあり方について考える一</p> <p>健康維持の基本となる食事は、最も生活に密着している身近な存在です。しかし、実際『何をどれだけ食べたらよいか』がなかなか分かりづらく、正しい知識を実践につなげていくことが難しい側面を抱えています。この講義では、まず『何をどれだけ食べたらよいか』を理解するために、科学的根拠に基づいて策定されている「日本人の食事摂取基準[2015年版]」について、その概要とよく目にする栄養素の最新情報を解説します。また、この考え方を活かして、より効果的な栄養教育の方法について行動理論を踏まえて考えていきます。</p>	<p>【内藤】</p> <p>生活習慣といわゆる生活習慣病と関係を学び、子どもの時から、好ましい生活習慣を身につけることの重要性を理解します。生活習慣病予防のために注意すべき主な生活習慣として、食生活と身体活動・運動が重要であることを認識します。これらの知識・理解を基礎として、子供たちに好ましい生活習慣を持つよう指導できるようになることを目標とします。</p> <p>【三田】</p> <p>1. 「日本人の食事摂取基準[2015年版]」の概略とエネルギーや栄養素の科学的根拠を理解し、その活用方法を学習します。 2. 栄養教育について知識を深め、ヘルスプロモーションにおける栄養教育の役割を理解します。</p>	<p>中高家庭科 教諭 栄養教諭</p>	<p>内藤通孝 三田有紀子</p>

◆C8 家庭科を巡る最新研究と課題:平成29年8月7日(月)

講習の概要	到達目標	対象	担当講師
<p>【石原】 ー被服製作を支援するマルチデバイス対応型コンテンツについてー 高等学校普通科では家庭科の単位数削減に伴い被服分野の内容も削減されているため、授業内で多くを習得させることは人的にも時間的にも難しい現状がある。被服関係の大学においても学生の入学時の被服関係の知識・技術には大きな差があり、授業レベルの設定が難しくなっている。高等学校の家庭科教員へのアンケートにおいてもこの点が指摘されている。そこで本講座では、この差に対応するために、これまで我々が取り組んできた原型作図、スカート作図、ドレーピング、基礎縫い、パンツ製作、素材テストなど教育現場で比較的簡単に利用できるいくつかの電子コンテンツを取り上げ、利用方法と応用的展開例を紹介する。</p> <p>【清水】 ー建物の耐震安全性ー 近年、我が国では大地震が頻発しており、建物の安全・安心性に関する関心が高まっている。本講義では、大地震でも倒壊しない建物とするための基礎知識を得るための講義を行い、被災時に避難場所などに指定されている学校建築の耐震重要性を理解させることを目標とする。講義ではまず、過去の自然災害(地震・台風・洪水など)の紹介から始め、日本を含めた世界の自然災害の現状について学ぶ。次に、我が国で最も建設棟数が多い木造住宅に着目した耐震設計の歴史と現状を学び、日本の耐震設計の基礎を理解させる。最後に、大地震でも倒壊しにくい建物とするための要点を整理する。</p> <p>【植林】 ー金融教育を巡る環境変化とこれからの実践的金融教育についてー 2008年に発生したリーマンショック以降、世界各国における金融教育(わが国では家庭科、公民、商業に含まれる)の重要性に関する認識が高まってきている。2012年にはOECDの学習到達度調査(PISA)において初めて金融リテラシー調査が開始されたほか、我が国でも2011年より金融広報中央委員会によって大規模な調査が行われるようになっていく。一方で、金融の実態は年々複雑化し、理解が難しくなっているのが実情である。このように金融教育ニーズが高まる一方で複雑化する金融に関して、まず、最近の変化について鳥瞰した後、教育を行っていく上での大まかな枠組みを説明し、さらに、どういった目線でどのように金融教育を行っていけばよいかについて、求められる年齢別理解度と照らし合わせながら考えていく。</p>	<p>【石原】 1. 被服製作関係のマルチデバイス対応型コンテンツ導入の現状を知る。 2. 授業に使える簡単な電子コンテンツ作成の手法を知る。 3. 提示方法と被服製作技術の向上と分野内の横断的展開について知る。</p> <p>【清水】 建物の耐震性能を向上させるための要点について木造建物を中心に理解し、学校建築に多いコンクリート建物に応用するための基礎知識を持たせることを目標とする。また、講習をうけた教員が日頃から地域の防災準備状況に関心を持ち、災害時において積極的に行動できる人材となることも目標とする。</p> <p>【植林】 ・現在の複雑な金融環境、金融技術の発達や難解な金融政策をザックリと理解する。 ・金融教育を行うにあたって知っておくべき基本的な枠組みを理解する。 ・一つの目線となる「金融リテラシーマップ」や「学校における金融教育の年齢別目標」の概要を知る。 ・生徒に合わせた目線での金融教育を行ううえでのヒントを身に付ける。</p>	小学校教諭 中高家庭科教諭	石原久代 清水秀丸 植林 茂

◆C9 音楽科を巡る最新課題:平成29年8月4日(金)

講習の概要	到達目標	対象	担当講師
<p>【山中】音楽科の授業について、学習指導要領や教育の最新課題から考えます。講習担当者から提案しますが、持ち寄っていただいたものについても取り上げたいと思いますので、やってみて面白かった教材あるいは授業案がありましたらご持参ください。</p> <p>【渡邊】ー新指導要領における創作分野の内容をふまえた楽譜ワープロを用いた展開ー 学級の実情に合わせた楽器編成での合奏を成立させるための編曲法を、コンピューター上の楽譜ワープロを使用して実習する。</p>	<p>【山中】教育の最新課題や学習指導要領(音楽科)の傾向について理解し、音楽科の授業を考案することができる。</p> <p>【渡邊】 楽譜ワープロの使用法を習得して、音楽科目の効果的な合奏を編曲できることを目標とする。</p>	小学校教諭 中高音楽科教諭	山中 文 渡邊 康

◆C10 グローバル化と小学校の外国語教育:平成29年8月8日(火)

講習の概要	到達目標	対象	担当講師
<p>グローバル化の推進に併せて、次期学習指導要領では、小学校の外国語活動が小学校3年生まで引き下げられると同時に5・6年生では教科化され、「聞く」「話す」に「読む」「書く」ことも教えること、成績評価も必要となる。こうした学習指導要領の改訂ポイントと、実際にどのように教えていくのか、先行実施事例も紹介しながら、検討していく。</p>	<p>次期小学校学習指導要領の外国語活動・教科外国語の改訂ポイントを理解するとともに、単独またはネイティブのALTと共同で教科外国語の授業が実施できる基礎的知識と授業方法の基礎スキルと授業イメージを修得する。</p>	小学校教諭	宇土泰寛 林 敏博 森 和久 廣澤義晴